羽昨工高新聞

第132号

発行所
石川県羽咋市西釜屋町
石川県立羽咋工業高校
TEL (0767) 22－1193
編集兼発行
羽咋工業高等学校新聞部

人と繋がる力（コミュニケーション力）

学校長　塩田　憲司

本校の開校は昭和三十七年四月一日、その前年の昭和三十六年十二月に新設が決定し、開設準備が本格化した。昭和三十六年というのは私が生まれた年でもあり、本校の歴史と自分が重ねた年月を関連させて、自分勝手な感慨に耽った。本校の校長に赴任して四ヶ月が経とうとしている。「大きな声で印象の良い挨拶」のスローガンのもと、毎日、生徒の「おはようございます」「こんにちわ」の声とその振舞から元気をもらっている。また、地域の方々からもそんな声が多く寄せられている。様々な場面における挨拶という、ある意味単純な行為が、その言葉、表情、振舞とともに、人間関係の絆を作る。大切にしなければならない。

さて、私はこの寄稿の中で、皆さんに、人と繋がる力としてのコミュニケーション力の再認識と、それを身に付けて行くため姿勢について問いかけたいと思っている。私は、この五月から六月にかけて、地元を中心に県内の三十社ほどの企業をまわる機会があり、その際、企業の様々な立場の方々とお話をすることができた。総じて、本校生徒の評判は良く、いずれの企業でも頑張っている様子を伺うことができ安堵した。お話をする中で、私は「本校生徒に限った話ではなく、近年の若い新人社員達の様子について、何か気になったり、気づくことはありますか。」と尋ねてみた。その中で、印象に残ったものとして二つあげておきたい。一つは、コミュニケーション力。こう言うと何か難しい能力のように思うかもしれないが、「挨拶はもちろんなんだが、自分の思いや考えを話す力が必要。わからないことがあるのに、自分からわからないと言えずに指示を待っている。これでは困るんですよね。」という企業の方。もう一つは、チームで仕事をする姿勢。「一人で仕事を進めることはほとんどない。どう協力してやっていくかが大事なんです。」という企業の方。

次の資料は、労働政策研究・研修機構が平成二十五年に実施した「構造変化の中での企業経営と人材のあり方に関する調査」の「若年者の正社員採用で重視しているもの」という項目の結果の抜粋である。《複数回答で、過去（一九九〇年代）と現在を比較》

私は、この調査結果で、「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加していることに注目した。私が思っているコミュニケーション力というのは、単に相手に自分の考えを伝える言葉の豊富さ・話し方の巧みさ（単に話がうまいと言ったスキル）という事ではなく、他者の話に丁寧に耳を傾け、その話の背景に思いを寄せながら、話の核心を理解する力。そして、それを踏まえて、自分の意見や考えを理由や根拠を添えて他者に話し、他者と調整していく力だと思っている。「NO！」と言うことも大事である。他者と調整するためには、当然、他者の心情や関係性に配慮した表情や言葉遣いが求められる。実際の社会の中では、最終的に他者を説得する、納得させる力だと思っている。しかし、こうした力を高校生の内に身に付けるというのはそう簡単なことではない。当然、社会に出てから、日々の仕事経験や失敗という体験を通して身に付けていくものでもあると思う。今、世の中は大卒、高卒にかかわらず、即戦力とポテンシャル（潜在能力）の両方が求められている時代であり、皆さんが生きる十年後、二十年後、三十年後の世の中を予測することは簡単ではない。情報化がさらに進み、AI（人工知能）など、科学技術が高度化され、機械やロボットがこれまで人間のやってきた仕事に取って代わっているとも言われている。

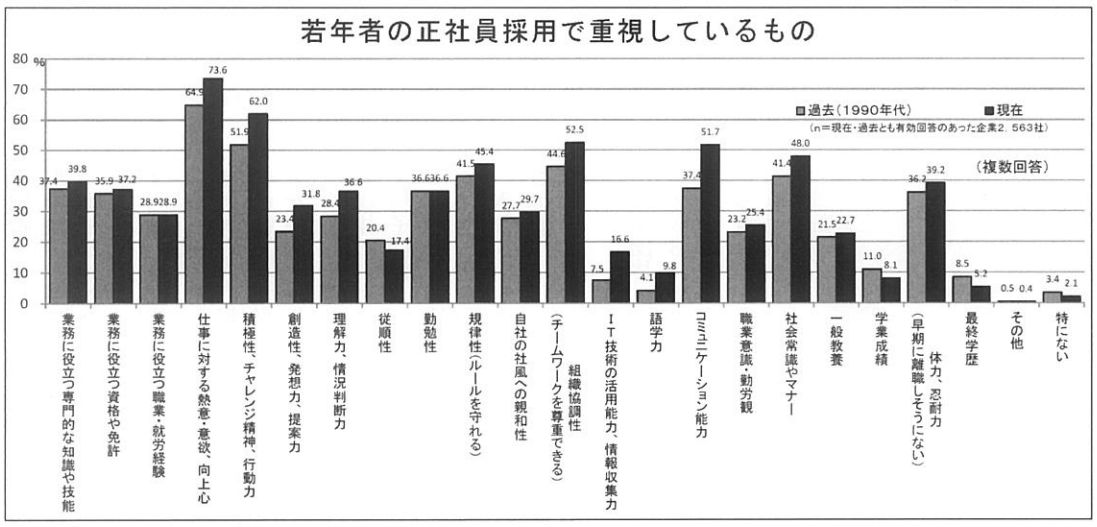
私は、高校生の間に、人と繋がる力としてのコミュニケーション力の土台づくりをしっかりやっていくことが大切であると強く思っている。

それでは、コミュニケーション力を身に付けるために、私たち（生徒、教員、保護者、地域社会）は具体的にどんなことをやっていけばよいのだろうか、と言う話になる。

例えば、学校という枠で考えるならば、授業中に先生の話を聞いているだけ、黒板やプロジェクタ画面に書いてあることをノートやプリントに写しているだけ、教科書の内容を暗記しているだけの学習でそうした力が身に付きますか、と言うことである。教師と生徒の双方向、生徒同士の双方向、互いの質問や考えを伝えるやりとりの中でこそ、こうした力は徐々に積み重なっていくのではないか。ただ、誤解しないでほしいのは、暗記・暗唱や反復練習による基礎・基本の知識や技術・技能を身につけることが不要と言っているのではない、むしろ重要なことだと思っている。日々の学習で大切にするべき視点を広げてほしい、と言うことである。

学び方に正解が一つあるわけではない。皆さん一人一人が日々の生活の中で、人と繋がる力としてのコミュニケーション力をもう一度再認識して、自身の学びを工夫してほしい。教室でも、部活でも、家庭でも、地域でも、人と繋がる場面はたくさんある。

チーム羽工の皆が、現状に甘んずることなく、「昨日よりは今日、今日よりは明日、少しずつ善くなっていく」ことに私は期待を込めている。



（調査分析より抜粋）

具体的にどのような資質を最も重視しているかと尋ねると、過去及び現在も「仕事に対する熱意・意欲・向上心」をあげる割合が最も高く、「積極性、チャレンジ精神、行動力」「組織協調性（チームワークを尊重できる）」などが続いている。過去と現在の変化をみると、減少したのは「最終学歴」（－3.3%）や「従順性」（－3.0%）、「学業成績」（－2.9%）などで、代わりに「コミュニケーション能力」（＋14.3%）のほか、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（＋10.1%）、「仕事に対する熱意・意欲・向上心」（＋8.7%）、「創造性、発想力、提案力」（＋8.4%）といった資質の重要度合いが高まっている。

平成二十八年度入学式

四月八日（金）、平成二十八年度入学式が行われ、電子機械科四十名、電気科四十名、建設造形科四十名が新たに羽咋工業高校に入学しました。

羽咋工業高校に入学して

一年　電子機械科　表　来晴

電子機械科は四十人中、女子が二人です。初めは、上手くやっていけるか不安でしたが、今はホーム長を務め、クラスにもなじんできたと感じています。勉強の方では、工業高校ならではの授業が始まり、初めて耳にする難しい単語や計算に頭を悩ませながらも、自分の知識となるよう、工業の基礎を学んでいます。実習で、今は電子回路をしていますが、「これをすることによって何ができるのか?」などの疑問が止まらず、いつもワクワクしています。他の実習も早く経験してみたいです。

これからの目標は、まずテストで上位を目指すこと・羽工祭に向けて十一ホームである程度のチームワークがとれるようにすることです。テストで上位を取るには、中学の時よりももう一段階上の学習をしていかないといけないと思うので、中学の時に出来なかった、計画的に勉強するということを頑張って行きたいです。クラスでは、「クラスメートと話す」ということを大切にしていきたいと思います。充実した学校生活を送るために、毎日を楽しんでいきたいです。

部活は、野球部のマネージャーをしています。私は野球に関わったことがなく、ルールも何もわかりませんでしたが、二人の先輩に支えられ、できるようになったことが沢山あります。アナウンスやスコアなど、正確で綺麗に書けるように、今は練習中です。

勉強、部活の両立ができるよう、しっかりやるべきことをしていきたいです。

一年　電気科　垣越　柊汰

僕は、羽咋工業高校に入学して思ったことがあります。それは、あいさつがとても良いということです。廊下で先生や先輩にすれ違うたびに、大きな声であいさつをしています。自分も早くなじめるように、大きな声であいさつをしていきたいです。

そして、羽咋工業高校は「チーム羽工」として、とても団結力がある学校です。入学式、対面式での校歌は、とてもすごかったです。部活動紹介でも、各部活動の仲がとてもよさそうでした。

他には、その科ならではの授業です。今はまだ少しかしていませんが、とても楽しいです。自分は電気科なので電機基礎があります。電気の回路のことなどを勉強しています。中学校の時は、回路の話は嫌いでしたが、専門的に学習することで、少しずつ好きになってきました。これからも頑張りたいです。また、今は僕はまだしていませんが資格が沢山取れる高校です。一年生でも取れる資格が沢山あるので、頑張りたいです。電気工事士の一種と二種を頑張って取りたいです。

そして、チーム羽工として頑張って行きたいです。

一年　建設造形科　府中　亮太

僕は、羽咋工業高校に入学して、工業科の特色というものを実感しました。中学校とは違い、もちろん五教科の授業もあるけれど、工業科独特の情報技術や工業技術の授業があり、びっくりしました。羽工は印象の良いあいさつをしていて、中学校の頃より工夫して、あいさつをすることができるようになりました。入学をする前は、友達ができるか不安だったけど、みんな優しくて、すぐに友達をつくることができました。さらに先輩の二、三年生もとても優しく接してくれて、とても嬉しいです。羽工どの先生も就職に有利な学校と言います。自分が就きたい職に就くには、しっかり勉強しないといけないので、一日一日の授業を大切にし、集中して受けていきたいし、家での家庭学習も中学校に引き続きしていきたいと思います。高校は成績によって留年や退学につながるというのを聞きました。こういうところが中学校との大きな違いかなと思いました。しっかり勉強して、三年後に卒業したいです。また、勉強のほかに部活動の参加がありました。入部した野球部は学校の顔だと思います。なので、礼儀に気をつけ、当たり前にできる人間に成長したいし、部活動で肉体的、精神的なことを学びたいです。入学して高校生になって、大人の自覚を持ち生活したいし、夢を叶えるためにここに入学したので、たくさんの検定受験、テスト、部活動をバランスよく頑張り、将来後悔しないようにしていきたいです。

先生紹介

今年度新しく本校に赴任された先生方に次の項目でアンケートに協力していただきました。紹介します。

1　名前
2　担当教科
3　前任校
4　趣味・特技
5　羽工生徒の印象

1　塩田　憲司（しおだ　けんし）
2　学校長（数学）
3　石川県教育委員会（十年）
4　その前任は、金沢泉丘高校
スキー・バドミントン
（最近、機会は減りましたが…）
5　顔を見て、大きな声で挨拶できる生徒が多いこと。

1　井村　和彦（いむら　かずひこ）
2　保健体育
3　金沢桜丘高校
4　庭の草毟り、映画
5　生徒の元気のよい挨拶。

1　古島　慎也（ふるしま　しんや）
2　工業（電気）
3　金沢市立工業高等学校
4　フットサル、プログラミング
5　素直で元気の良い生徒が多いです。それぞれの夢の実現に向かって共に頑張っていきましょう。

1　佐竹　直樹（さたけ　なおき）
2　地歴（現社・日A）
3　鹿西高校
4　読書
5　授業を含めて、とても活発な生徒が多い印象を受けました。また、一人一人が目的意識を持って行動しているように思います。

1　南　豪起（みなみ　ごうき）
2　工業（電気）
3　スキー・スノボー
4　皆が挨拶をしていて元気な学校。
5

1　野崎　茂雄（のざき　しげお）
2　事務長
3　七尾城北高校
4　読書
5　大きな声の挨拶で毎日元気を貰っています。